

指導資料

鹿児島県総合教育センター

総合的な学習の時間 第9号

- 小学校対象，盲・聾・養護学校対象 -

平成14年9月発行

総合的な学習の時間における評価の在り方 - 小学校編 -

今年度から総合的な学習の時間が全面実施となり，各学校で，特色を生かした活動が展開されている。評価についても，この時間のねらいを踏まえ，指導と評価の一体化を図りながら，子どもの学びに生きる評価の在り方について各学校で十分に検討し，実施していくことが重要である。

この時間の評価は，各教科・領域と同様に，子どもの学習状況の評価とカリキュラムの評価の両面から考えていくことが大切であるが，本稿では，学習状況の評価を中心に述べる。

1 基本的な考え方

(1) 評価の観点を定めて評価する。

評価に当たっては，何を評価するのかを明確にすることが必要である。学習指導要領のねらいを踏まえて，例えば，「課題設定の能力」「問題解決の能力」「ものの考え方」「学習への主体的，創造的な態度」「自己の生き方」などの学習状況の評価の観点を独自に定めることが重要である。

評価の観点を定めることは，子どもにどんな力を付けたいのかを明らかにすることに外ならない。

(2) 学習全体を通して総合的に評価する。

学習状況の評価は，活動の結果だけの評価するのではなく，学習の過程全体を通して，子どもの活動のよさや生き方についての振り返りなどを評価することが大切である。

評価の方法としては，例えば，ワークシート，日記，発表資料などの製作物や子どもの自己評価や相互評価を活用したり，子どもの活動状況を観察して評価したりするなど，適切かつ総合的に評価していくことになる。

(3) 学習状況の評価をカリキュラムの評価に生かす。

各学校は，目標や内容を定め，それを基礎にして年間指導計画を作成していくことになる。したがって，目標や内容，年間指導計画が，この時間の目指している力を子どもたちに身に付けられるものであるかどうかを絶えず見直し，吟味していく必要がある。そのようなカリキュラムの評価を行うためにも，各学校は子どもたちの学習状況の評価を積み重ねていくことが大切である。

2 評価の進め方

(1) 評価規準を設定する。

ア 評価の観点を設定する。

各学校においては、総合的な学習の時間のねらいを基に、自校の実態を踏まえて、育成すべき資質・能力を決定し評価の観点を設定する必要がある。

評価の観点の例としては、「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」(教育課程審議会答申平成 12 年 12 月)において次のように示されている。

(総合的な学習の時間のねらいを踏まえて)

課題設定の能力、問題解決の能力、学び方、ものの考え方、学習への主体的、創造的な態度、自己の生き方

(教科との関連を明確にして)

学習活動への関心・意欲・態度、総合的な思考・判断、学習活動にかかわる技能・表現、知識を応用し総合する能力 など

(各学校の定める目標や内容に基づいて)

コミュニケーション能力、情報活用能力 など

イ 学年ごとの評価規準を設定する

それぞれの評価の観点において、発達段階の特性や学年の目標や内容に応じて、7 ページの【評価規準表の例】のような評価規準表を各学校が作成する。

そして、このような評価規準表を基に単元ごとの具体的な評価規準を設定していくことになる。

(2) 単元の指導計画に評価を位置付ける。

単元ごとの具体的な評価規準を問題解決の各段階に位置付け、具体的な評価方法を工夫する。

<第5学年単元名「○○川を守ろう」の評価計画例>

	主な学習活動	具体的な評価規準と評価方法
ふれる・つかむ	1 ○○川の清掃を行う	○○川について自分なりの課題をもち具体的に何をすべきかが分かる。(課題設定の能力) 感想カード、ウェビング法、自己評価カード
	2 ○○川についての課題を発表する。	
たてる	3 調べる内容や方法などの計画を立てる。	見通しをもって、具体的な学習計画を立てることができる。(問題解決の能力) 活動計画表、自己評価カード
調べる	4 活動計画にしたがって、それぞれの課題を追究する。	事象の原因と結果を予想しながら、考えることができる。いろいろな資料を基に客観的に調べ判断することができる。 (ものの考え方) 行動観察、学習ファイル、自己評価カード
まとめる・いかす	5 追究活動で分かったことをまとめ、自分の学びを振り返って、自分の実践を見通す。	表やグラフなどを活用し、要点を押さえて、まとめることができる。(問題解決の能力) 環境問題の解決に向けての自分なりの実践を考えることができる。(自己の生き方) 学習ファイル、感想文、自己評価カード

(3) 活動計画表や自己評価カードを準備する。

子どもが主体的，創造的に学習活動を展開するためには，子ども自身に活動計画を立てさせる必要がある。また，自ら学び，自ら考える力を育てるためには，自らの学習の過程を振り返りながら，学習を進めさせる必要がある。そのために，教師は活動計画表や自己評価カードを準備しておく。

< 第5学年の活動計画表の例 >

活動計画表 (年 組)			
【学習テーマ】(全 時間)			
【調べたい理由】			
調 べ る こ と	方 法	時間	場所等

活動計画を立てる段階においては，「何を，どのくらいの時間で，どこで，どのように追究していくか」が明確になっているかを見取ることが大切である。

また，調べる方法については，体験的な活動も取り入れながら，より一層具体的に計画できるようにする。そのためには，教師は，追究活動の広がりや深まりを予想しながら，調べる方法について助言していくことが大切である。

< 第5学年 単元の自己評価カードの例 >

振り返りカード (年 組)		
	振り返ること	評価
ふ れ る ・ つ か む	○ 調べたいことを見付ける。	
	○ 自分なりの学習テーマをつかむ。	
た て る	○ 見通しをもって計画を立てる。	
調 べ る	○ インターネットや多様な体験的活動を通して情報を収集する。	
	○ 問題となっていることの原因と結果を考えながら調べる。	
ま と め る ・ い か す	○ 学習ファイルの資料を選んで，まとめる。	
	○ 表やグラフなどを使い，要点を押さえて発表する。	
	○ 自分のことを考え，これからの学習や生活に生かす。	
【学習後の感想】 -----		

(よくがんばった がんばった もう少し)

このような単元の自己評価カードを各段階ごとに記入しながら学習を進めることによって，子どもは自らの学びを振り返ることができる。その際，教師の評価と自己評価カードの評価とのずれがあった場合は，教師は，子どもの評価を見直すとともに，活動のよさを認めたり，それまでの活動の経過を想起させたりすることが大切である。

なお，単元の自己評価カードの外に，毎時間ごとの自己評価カードを作成して，活用する場合も考えられる。

(4) 評価計画にしたがって学習状況の評価し、子どもの学びに生かす。

子どもの活動のよさを認めたり、活動の見直しをさせたりするなどして、子どもの学習を価値付け、問題解決の方向を示唆する。つまり、指導と評価の一体化を図り、子どもの学びに生かすようにすることが大切である。具体的には、次のような教師の働き掛けが考えられる。

【学習意欲が低下している場合】

自分なりの思いや願いを認めながら、課題の見直しをさせたり、活動計画を修正させたりして、問題意識を高める。

【追究活動が進まない場合】

粘り強く活動するように励ましたり、他のグループの調べ方を紹介したりして、追究活動への見通しをもたせる。

【意欲的に追究活動を行っている場合】

活動のよさを認めたり、学習テーマと関連する情報を提示したりして、活動を連続・発展させる。

(5) 評価の結果を蓄積する。

教師は、一人一人の学習の過程が見えるように、補助簿などにより、日頃から評価の結果を蓄積しておく必要がある。

また、子ども自身も自らの学習の過程を振り返ることができるように、活動計画表や資料、調査メモ、感想文等を学習ファイルにつづっておく必要がある。いわゆる、ポートフォリオ評価は、このような学習ファイルを活用した評価方法の一つである。ポートフォリオ評価におい

ては、ただファイルするのではなく、蓄積した資料を整理したり、付箋紙に書かれた友達や教師、保護者などのコメントを添付するなど、相互評価を取り入れたりすることが大切である。

(6) 単元の指導計画を見直す。

追究活動の広がりや深まり、学習後の資質・能力の高まりの結果を基に、単元の指導計画の問題点を明らかにする。そして、8ページの【カリキュラムの評価表の例】などを用いて指導計画を見直す。

(7) 評価を通知表や指導要録に記入する。

通知表におけるこの時間の記述の仕方としては、総合所見の欄に記述したり、次の例のように、観点を明示した欄を設けて記述したりする場合などが考えられる。いずれの場合も、補助簿や学習ファイルなどを基に、活動の様子や成果、進歩の状況等について文章で記述する。

【総合的な学習の時間の欄】

観 点	課題設定の能力、問題解決の能力、ものの考え方、主体的、創造的な態度、自己の生き方
上記の観点の中で、特に顕著な事項があった場合にその特徴を文章で記述する。	

また、指導要録の記入の仕方については、指導の目標や内容に基づいて定めた評価の観点を記入し、子どもの学習状況における変容や進歩など、その特徴を具体的に表すなど、子どもにどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

3 展開例

ここでは、指導と評価の例をA小学校第5学年単元名「みんなでつくろう、夢の町」における「ふれる・つかむ」段階で述べることにする。

(1) 評価計画

単元名「みんなでつくろう、夢の町」(全30時間)

()の数字は時数

学習過程	主な学習活動	具体的な評価規準と主な指導 (○は主な指導 〻は具体的な評価規準)	主な評価方法
ふれる・つかむ (7)	21世紀「町づくりの夢」 ～自分たちでもっといい町にしよう～	○ ウェビング法で視野を広げるようにする。 単元全体の見通しをもつ。 (問題解決の能力)	・行動観察 ・日記 ・ウェビングカード
	みんなで〇〇市の明るい未来につながる「町づくりの夢」についてのアイデアを提案しよう。	○ 自由な発想を絵や文で表せるようにする。 ○ それぞれのアイデアを認めたり賞賛したりするなどの声掛けをする。 活動への意欲を高める。 (主体的、創造的な態度)	・行動観察 ・作品 ・日記
	これまでの学習を振り返り、自分たちの問題点について出し合い「町づくりの夢」についてのアイデアを話し合う。	○ それぞれのアイデアのよさを認め合うようにする。 自分なりのアイデアを考え、それに対する課題を見付けることができる。 (課題設定の能力)	・行動観察 ・面接 ・自己評価カード ・日記
たてる (3)		○ アイデア別のグループ編成を行う。 活動の見通しをもち、活動の大まかな計画を立てることができる。(問題解決の能力)	・行動観察 ・面接 ・活動計画表
調べ (15)	自分たちのアイデアをよりよいものとするために、課題を見付けて調べてみよう。	○ 一日の活動の終わりには、それぞれの活動を報告するようにする。 ○ 振り返りカードにより、それぞれの活動を把握し、活動のよさを認めたり改善点について、アドバイスしたりする。 ○ 調べる活動だけでなく、体験的な活動を取り入れるように助言する。その際、相手方に迷惑を掛けないように指導する。 自分たちの課題(テーマ)を自分たちなりの方法で追究できる。(問題解決の能力)	・自己評価カード ・学習ファイル ・行動観察 ・面接 ・日記
		○ プロジェクト会議に町づくりの専門家を招いてアドバイスをもらうようにする。 プロジェクト会議での友達のアイデアに対して、自分なりの意見を発表することができる。(ものの考え方)	・発表(作品) ・自己評価カード ・行動観察 ・面接 ・日記
		○ 電子メールの使い方やマナーなど「学び方カード」を基に、全体で確認するようにする。 プロジェクト会議を基に、自分たちの課題を修正することができる。(問題解決の能力)	・作品 ・行動観察 ・自己評価カード ・面接 ・日記
まとめる・いかす (5)	まとめた自分たちのアイデアをみんなに発表しよう。そして、〇〇市に送信しよう。	○ 発表会を基に、さらに内容をよりよいものに改善できるようにする。 アイデアを分かりやすく発表し、電子メールで送信することができる。(問題解決の能力)	・発表(作品) ・自己評価カード ・面接 ・日記
	これまでの活動を振り返り、「町づくりの夢」について、自分たちに実践できることを話し合う。	○ これまでの活動を感想文としてまとめ、実践化につながるようにする。 自分たちにできることを考え、これからの生活に生かそうとしている。(自己の生き方)	・感想文 ・行動観察 ・自己評価カード ・面接 ・日記

(2) 指導と評価の実際

単元の評価計画表に従って、「ふれる・つかむ」段階の授業で、評価規準を基に支援を行った例である。

ふれる・つかむ(7時間)

！○：主な指導 ：具体的な評価規準 T：指導者 S：学習者

21 世紀「町づくりの夢」
～自分たちでもっといい町にしよう～
(3 時間)

- ウェビング法で視野を広げるようにする。
単元全体の見通しをもつ。(問題解決の能力) 【行動観察、ウェビングカード】

写 真

それぞれの考えを基に、全員で考えを
広げている場面

T 自分たちの町をもっと住み良い町にする方法を考えて、市長さんに提案してみたいと考えています。どんな方法があるかな。ウェビング法でたくさんアイデアを出してみよう。まずは、自分でカードに書いてみて、それを基に、みんなで考えましょう。

S 考えたことがないから、思いつかないなあ。

T 不便と感じたり、危ない目にあったりしたことはないかな。家族の方が話していることを思い出してごらん。こんな町だったら楽しいなということでもいいですよ。

S 公園や緑が少ないなあ。

S 車が多くて危ない。駐車違反も多い。

T いろいろありますね。自分だけではなく、他の人の立場に立って考えてみることも大切ですよ。(以下略)

みんなで○○市の明るい未来につながる「町づくりの夢」についてのアイデアを提案しよう。(2 時間)

- 自由な発想を絵や文で表せるようにする。
- それぞれのアイデアを認めたり、賞賛したりするなどの声掛けをする。
活動への意欲を高める。(主体的、創造的な態度) 【行動観察、作品】

T 「町づくりの夢」のアイデアを聞いて、もっとよくなるようにアドバイスしてあげましょう。

S それぞれが個別に発表(それぞれの方法で)

T ○○さんは、OHP を使うことで、みんなに自分たちの考えをしっかりと伝えることができたようですね。それぞれに、町をよくしたいという思いが伝わってきました。

S ○○さんは、緑を増やしてみんなが楽しく過ごせるようにしたいと考えているところがすごいと思った。

T アイディアの理由もしっかり提案できているところがいいですね。そのことに気付いたあなたもえらいですよ。

S わたしも、お年寄りが安心して暮らせる町にしたいです。

T とても大事なことです。お年寄りの方が安心して暮らせる町とは、どんな町なんだろうね。(以下略)

- 未来の町の設計図を作るような気持ちで、一人一人の思いを自由に表現させる。作文や絵など、方法は自由にさせることで、表現そのものに抵抗感を感じることがないように配慮する。

- 次の活動への意欲が高まるような声掛けを心掛ける。

- 教師は、アイデアの善し悪しを決めるような声掛けではなく、子どもたちの思いが更に広がるような声掛けをする。

これまでの学習を振り返り、自分たちの問題点について出し合い、「町づくりの夢」についてのアイデアを話し合う。(2 時間)

- それぞれのアイデアのよさを認め合うようにする。
自分なりのアイデアを考え、それに対する課題を見付けることができる。(課題設定の能力) 【行動観察、面接、自己評価カード】



自分の課題を考えている場面

(個別に指導)

- T みんないい町にしたいと考えているようですが、そのためには、解決しなければならないことがあるようです。それを考えてみましょう。
- S ごみのないきれいな町にするにはどうしたらいいんだろう。
- T ごみ拾いだけをしていても、なかなかきれいにならないね。自分たちで外にできることはないか考えてごらん。
- S お年寄りが安心して暮らせるためにはどうしたらいいんだろう。
- T 実際に、お年寄りの方々の気持ちを聞いてみるのもいいことかもしれないね。
- S アンケートしてもいいかな。
- T 活動計画の中に入れておけばいいね。(以下略)

【資料 1 評価規準表の例】

B 小学校では、「問題設定の能力」「問題解決の能力」「ものの考え方」「学習への主体的、創造的な態度」「自己の生き方」といった評価の観点から、次のような 2 学年ごとの評価規準を設定している。

学 年 観 点	第 3 ・ 4 学年	第 5 ・ 6 学年
の課題 能力設定	教師が設定したいくつかの課題から自分の課題を選んだり、与えられたテーマに沿って、自分なりの課題を決めたりしている。	与えられたテーマに沿って、追究する価値のある課題を決めている。
問題 解決 の能力	- 教師や友達と話し合いながら、自分なりに追究の計画を立てている。 - いろいろな方法を使って追究している。 - 伝えたいことを選び、自分の考えを入れてまとめ、表現している。	- 見通しをもって、課題に適した計画を立てている。 - 課題解決に適した方法を考えながら追究している。 - 考えたことや自分の意図が分かるように工夫しながらまとめ、表現している。
もの の考 え方	- 事象を比較したり、関係付けたりしながら相違点や共通点を明確にして、考えている。 - 自分なりの考えをもち、友達の考えと比較したり、関係付けたりしながら、判断している。	- 事象の原因と結果を予想しながら、考えている。 - いろいろな情報を基に、より一層客観的に判断している。
創主 造的 体的 な、 態度	- 粘り強く課題を解決しようとしている。 - 自分なりの考えをもって、工夫して課題を解決しようとしている。	- 自分の課題を意識しながら、進んで解決しようとしている。 - 既習経験を生かし、よりよい方法を考えながら課題を解決しようとしている。
生自 己己 方方	- 自分で決めたことは、粘り強くやり遂げようとしている。 - 地域の人と触れ合ったり、友達と協力したりして、他者と深くかわろうとしている。	- より高い目標に向かって、くじけずに努力しようとしている。 - 他者の立場に立って考え、行動しようとしている。

【資料２ カリキュラムの評価表の例】

カリキュラムの評価についても，評価の観点を明確にし，学校全体で設定した評価項目に照らし合わせて指導者自身が自己評価や相互評価をすることが必要である。その際，家庭・地域との連携の在り方も考えながら，以下のような評価表を基に評価し，その結果を踏まえて年間指導計画や単元の指導計画の改善を図ることが大切である。

評価の観点 評価項目		< 観点 1 > 総合的な学習の時間のねらい	< 観点 2 > 家庭・地域との連携
単元の指導計画と評価	○ 単元のねらいや目標	☐ 身に付けたい力が明確になっていたか。	☐ 家庭・地域の願いを生かしていたか。
	○ 単元設定とその理由	☐ 総合的な学習の時間のねらいとの関連が明確であったか。	
	○ 実施予定時期とその時間の配置	☐ 題材の内容との関連で適切な時期，時間配分であったか。	☐ 学校の計画に協力できる時期であったか。
	○ 題材・学習活動	☐ 取り上げた題材・学習活動は，単元のねらいを達成するのに有効であったか。	
	○ 評価	☐ 評価の目的や方法，評価の場が明確になっていたか。 ☐ 学習状況の評価が指導に生かされ，それを蓄積していたか。	☐ 保護者や外部人材からの評価を取り入れていたか。
○ 単元の配列・系統		☐ 学年の単元配列・系統は適切であったか。 ☐ 教科等との関連が図られていたか。	
○ 校内の学習環境整備		☐ 学校図書館の充実が図られていたか。 ☐ 情報機器や情報ネットワーク，活動場所の整備はできていたか。 ☐ ティームティーチング等の協力体制を整えていたか。 ☐ 学び方コーナーの整備がなされていたか。	
○ 校外で活用した場所・施設等		☐ 校外の施設等を効果的に活用できる指導計画になっていたか。	☐ 施設・場所等の活用に関しての調整・連絡に問題はなかったか。
○ 協力を依頼した外部人材		☐ 外部人材の協力が効果的に活用できる指導計画になっていたか。	☐ 保護者や外部人材にとって負担はなかったか。

学校全体で，それぞれの学年におけるカリキュラムの評価を基に，教育課程の編成や運営上の視点から，この時間を全体的・総合的に評価していくことも大切である。

〔引用・参考文献〕

文部省『小学校学習指導要領解説 総則編』平成 11 年 5 月

教育課程審議会答申『児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について』平成 12 年 12 月

（教育経営研修室）